

新潟県薬剤師会 薬剤師ボランティア活動報告書

班名	H班	報告日	平成23年 5月 6日
報告者氏名	佐藤 啓二	同行者氏名	飯澤 啓
活動期間	4月 27日 ~ 4月 30日	宿泊場所	
活動拠点	県立石巻高校	ジャニファへの掲載	掲載してもよい
交通手段	車		
主な活動 (簡潔に)	調剤、服薬指導。健康相談と支援物資のOTCの配布。往診同行。		

<活動の内容>

※H班班長は飯澤啓氏だが、現地での活動内容が異なったため、私の活動内容を報告します。

<石巻高校薬剤師ボランティア本部での業務の流れ>

- ・ 6:00 起床 各自朝食など
- ・ 6:45 朝のミーティング（本日の担当部署の確認、その日の夕方のミーティングに出席せずにボランティア活動を終了する方のご挨拶、写真撮影）その後各担当部署の時間にあわせて出発
- ・ ~19:00 各々担当部署の業務終了後、本部に戻り明日必要となるOTCを支援物資の中から集める、活動報告書を記載する、明日から活動するボランティアの方と業務の引継ぎをする、食事を摂るなどする。
- ・ 19:00 夕方のミーティング（本日の活動報告、明日の担当部署の確認、明日からボランティア活動に参加するため、本日途中から来られた方のご挨拶）ミーティング時間は45分から1時間半ぐらいとその日によって異なる。
- ・ ~23:00 夕食を摂るなど自由時間。
- ・ 23:00 就寝

<石巻高校拠点での主なボランティア業務内容>

- ① 仮設診療所での調剤服薬指導、OTC相談、往診同行
- ② 拠点病院での調剤業務
- ③ ボランティア医療班が来ている避難所での調剤投薬
- ④ 避難所を巡回してのOTC相談
- ⑤ 本部にて薬剤師ボランティアを統括し、支援するリーダー業務

※私が行ったのは①のみ。同じH班の飯澤啓氏は⑤の業務。

<ボランティア活動内容報告>

石巻市の宮城ヤンマー営業所の二階（一階は津波で流されている）に仮設診療所が作られており、そこでの業務に携わった。業務内容は①調剤服薬指導、②健康相談を行い支援物資のOTCを配布する、③仮設診療所を拠点とした往診に同行するという3つの仕事をおこなった。

診療所の認知度が低いのと、避難所に併設された診療所ではないため被災者が診療所まで自力で来なければならない（車を流されて移動手段がない人がものすごく多い）せいか、患者数は最高で1日21人と少なく、診察が9:30~15:00まで休憩なしではあるがゆとりのある診療をおこなっていた。医療班（医師、薬剤師、看護師、事務

で構成)は高知医大、産業医科大学などが入っており、1つの班は3~4日しかいないため引継ぎ業務が大変そうであった。また医療班には薬剤師が同行していない班もあり、3日おきの往診の際に医療班の薬剤師がいない場合は、薬剤師ボランティアから薬剤師を増員して往診にも同行した。医療班の持ち込みの薬は種類が限られているため、お薬手帳記載の同効他薬をDrに教えたり、OTCで代用できるものはそれを薦めたりと処方段階から関与をし、円滑な業務をチームとしてできるように心がけた。健康相談では片付けによる筋肉痛や傷などでシップ、ボルタレンゲル、絆創膏、消毒剤などが、また粉塵被害でアイボン、コンタクト洗浄用品、目薬、マスク(顔の大きさにあったサイズのもの)などの要求があった。それ以外ではアリナミンなどのビタミン剤、風邪、胃腸薬を予防的に持っていく方が多かった。往診は4か所の小規模避難所(被災者10人以下)を回った。その場で調剤を行った患者様は2名で(高血圧、腰痛)、インスリン注射の処方などは石巻日赤にて調剤をしてもらうための専用の処方箋を発行した。

<感想等>

- ・往診にて薬剤師の同行を医療班から求められるなど、お薬手帳の普及、ジェネリック医薬品の使用など複雑化している薬物治療の中で、薬剤師のニーズを十分に感じられた。阪神大震災の時は「薬の数なら小学生でも数えられる」とのことで薬剤師ボランティアを医療チームから断られたこともあったとお話を伺った。
- ・ドラッグストアの営業再開や個人医院の診察再開も進んできており、ボランティアでの医療やOTC配布の是非が今後問われることになる。現地復興には現地でお金を使用し、雇用を生み出さなければいけないというのは医療も同じであるため、ボランティアがその妨げにならないようにするポイントを探るのが困難な課題となるであろう。

※ボランティア活動が初めての方で、業務内容と生活面の両方に不安を抱えて現地に行くのは大変なことです。私が活動した「本部兼宿泊所である石巻高校」の状況ですが、簡単に記載します。

「電化製品」:給湯ポット、電子レンジ、インターネット環境(自由に使えるパソコンあり)、電化製品の充電可能。
懐中電灯は不要。冷蔵庫はなし。

「食」:夕は自衛隊の炊き出しがあった。水道はでるが、市が塩素濃度を濃くしているため直接飲む人はいなかった。
全員で使用する給湯ポットには支援品のミネラルウォーターを補充していた。

「住」:各自持参の寝袋で寝るが、若干のフトンと敷きマットはあり。春、秋用寝袋で寒いと感じることはなかった。

「近隣の店」:津波の影響がなかった店は営業しているところが多い感じをうける。石巻高校から車で5分かからないところのコンビニは通常営業していて、弁当などの購入もできる。また石巻河南インター付近の大型ショッピングセンターなども営業している

「安全面」:ガソリンが抜かれる、車上荒らしがいるなどの噂もあったが、4日間でそのような話はでてこなかったし、治安の不安を感じたこともなかった。

※ 今後行かれる方はどの程度自分の生活物資を持っていくか判断が難しいと思いますが、なるべく活動拠点での生活状況を報告して下さるように宮城県薬にはお願いしました。またボランティア本部は5月3日に石巻市内の別な場所に移転するため、新本部近辺の状況は各自確認してください。

※ 昼食は各ボランティア活動地点でとるが、お湯の用意もできないところが多いらしいので、昼食は簡単に取れるように工夫してください。(医師もカロリーメイトだけの方がいらっしやっただ)